

表紙にある「地を究め 知を創る」は、教育の舞台となる地域で学び、フィールドでの実践が新たな知を創造していく、本学の学びのあり方を表現しています。また、表紙・裏表紙を大胆に彩るデザインには、ロゴと学部・学科のカラーを使用。多様な分野の「知」が相互に関わり発展していく様子を表現すると同時に、紅葉をいただく大江山や北近畿を貫く由良川を想起させる配色とし、福知山市を含む北近畿の「地」を示しています。

福知山公立大学の「現在」

大学概要2024



【地域経営学部】地域経営学科／医療福祉経営学科
【情報学部】情報学科
【大学院地域情報学研究科】地域情報学専攻
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
TEL.0773-24-7100 FAX.0773-24-7170



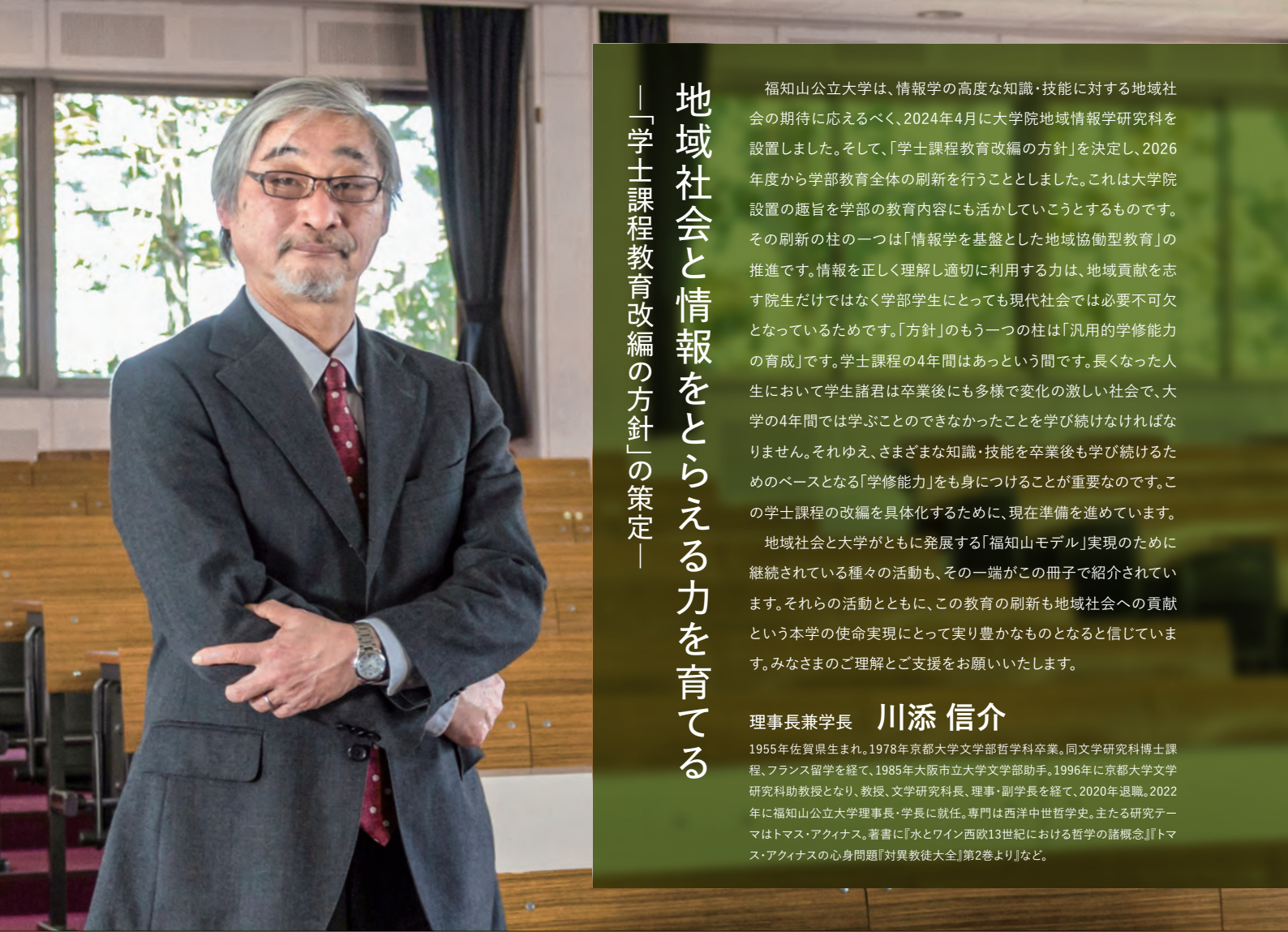
2024年7月 発刊

<https://www.fukuchiyama.ac.jp>

福知山公立大学

検索

地を究め 知を創る



「学士課程教育改編の方針」の策定―― 地域社会と情報をとらえる力を育てる

福知山公立大学は、情報学の高度な知識・技能に対する地域社会の期待に応えるべく、2024年4月に大学院地域情報学研究科を設置しました。そして、「学士課程教育改編の方針」を決定し、2026年度から学部教育全体の刷新を行うこととしました。これは大学院設置の趣旨を学部の内容にも活かしていこうとするものです。その刷新の柱の一つは「情報学を基盤とした地域協働型教育」の推進です。情報を正しく理解し適切に利用する力は、地域貢献を志す院生だけではなく学部学生にとっても現代社会では必要不可欠となっているためです。「方針」のもう一つの柱は「汎用的学修能力の育成」です。学士課程の4年間はあっという間です。長くなった人生において学生諸君は卒業後にも多様で変化の激しい社会で、大学の4年間で学ぶことのできなかったことを学び続けなければなりません。それゆえ、さまざまな知識・技能を卒業後も学び続けるためのベースとなる「学修能力」をも身につけることが重要なのです。この学士課程の改編を具体化するために、現在準備を進めています。地域社会と大学がともに発展する「福知山モデル」実現のために継続されている種々の活動も、その一端がこの冊子で紹介されています。それらの活動とともに、この教育の刷新も地域社会への貢献という本学の使命実現にとって実り豊かなものとなると信じています。みなさまのご理解とご支援をお願いいたします。

理事長兼学長 川添 信介

1955年佐賀県生まれ。1978年京都大学文学部哲学科卒業。同文学研究科博士課程、フランス留学を経て、1985年大阪市立大学文学部助手。1996年に京都大学文学研究科助教授となり、教授、文学研究科長、理事・副学長を経て、2020年退職。2022年に福知山公立大学理事長・学長に就任。専門は西洋中世哲学史。主たる研究テーマはトマス・アキナス。著書に『水とワイン西欧13世紀における哲学の諸概念』『トマス・アキナスの心身問題『対異教徒大全』第2巻より』など。

地域と密接に結びつき、地域連携と教育・研究が互いに強化し合う独自の地域協働型学習の枠組みを育てることが私のミッションです。鍵は、ステークホルダーの自発的な取り組みとその相互作用による新たな価値の創出です。豊富なデジタル環境の中でAIを活用し、業務の自動化を推進することで、新たな地域協働の境地を開拓し、教職員や学生のウェルビーイングを高めるシステム作りに注力しています。評価対応では、大学のパフォーマンスを深く理解するため、評価指標のデザインや高品質な指標の算出をめざします。皆様とともに楽しくチャレンジしていきたいと思っています。



理事兼副学長
(地域貢献・評価担当)

西田 豊明



理事兼副学長
(学務・総務担当)

倉田 良樹

福知山公立大学では「地域協働」という独自の教育を実践しています。教員は学生を伴って地域に入り込み、学生自身が地域の自治体、企業、諸団体、さらには住民の皆様方と直接に交流し、地域の課題を主体的に学んでいくことを求めています。本学の地域協働型教育は、福知山市、北近畿地域の皆様のご支援に支えられて今日まで成果を上げることができました。ここに皆様のご理解とご協力に対して、深く感謝の意を表する次第です。創立10周年を迎える2026年に向けて、本学では地域協働型教育のさらなる深化・拡充をめざしています。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

INDEX

1	学長、副学長挨拶	11	附属機関	18	― 地域連携
2	基本理念・目標 基本情報 沿革	13	教員一覧	20	― 財務状況
3	福知山モデル	15	全国から集う学生たち	21	― 組織 教職員数
5	2023年度・2024年度4月のトピック	16	データ集	22	― キャンパスマップ アクセス
7	学生×地域		― 学生数 入試実施状況		
9	学部学科・大学院	17	― 進路状況		

基本理念・目標

大学の基本理念は、「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」である。

この基本理念の下、大学は地域と協働し多様で主体的に行動する人材の育成、地域産業の活性化と新産業の創造、暮らしの質・文化の向上、さらには若者が定住する賑わいある地域づくりや北近畿地域で学び働く人材循環システムの構築、地域協働型教育研究の発展など新たな社会的価値の創出に寄与することを目標とする。

基本情報

2024年5月1日現在

法人名	公立大学法人福知山公立大学
法人設立	2016年
所在地	京都府福知山市字堀3370番地
組織	【 学部 】 地域経営学部 (地域経営学科、医療福祉経営学科) 情報学部 (情報学科) 【 大学院 】 地域情報学研究科 (地域情報学専攻)※2024年度開設 【 附属機関 】北近畿地域連携機構、メディアセンター、地域防災研究センター、国際センター、数理・データサイエンスセンター
学生数	875人 (学部:860人、大学院:15人)
教職員数	【教員】63人 【職員】52人
校地校舎	【校地】29,771.13㎡ 【校舎】13,395.53㎡

沿革

- 2016年(平成28年)
 - 公立大学法人福知山公立大学設立(設立団体:福知山市) 地域経営学部 (地域経営学科40人、医療福祉マネジメント学科10人)
 - 初代理事長兼学長に井口和起が就任
 - 北近畿地域連携センター設置 (2020年に北近畿地域連携機構に名称変更)
- 2017年(平成29年)
 - 医療福祉マネジメント学科を医療福祉経営学科に名称変更
 - 地域経営学部の入学定員を変更 (地域経営学科95人、医療福祉経営学科25人)
- 2018年(平成30年)
 - まちかどキャンパス「吹風舎」設置
- 2020年(令和2年)
 - 情報学部設置(情報学科100人)
 - 地域経営学部の入学定員を変更 (地域経営学科75人、医療福祉経営学科25人)
- 2021年(令和3年)
 - 地域防災研究センター設置
 - 国際センター設置
- 2022年(令和4年)
 - 2代目理事長兼学長に川添信介が就任
 - 数理・データサイエンスセンター設置
 - 5号館竣工
- 2024年(令和6年)
 - 大学院地域情報学研究科設置(地域情報学専攻20人)



開学記念式典(2016年4月)

これまでの本学重点施策

- **学びの拠点基本構想**(2015.3)
福知山公立大学開設に向けた基本構想
- **知の拠点整備構想**(2018.2)
情報学部設置を柱とする組織改編や施設整備の計画
- **福知山公立大学将来計画**(2021.3)
第2期中期計画を見据え、新たな地域連携のコンセプトである「福知山モデル」の提示や大学院の設置を掲げる

「福知山モデル」の実現に向けて

第2期中期目標では2022年度から2027年度の6年間で「福知山モデル」の実現をめざしており、多様な取り組みを通じて地域と大学が共に成長・発展し、地域経営学と情報学の専門的知見や技術をもって、地域の課題解決や新たな価値の創造に向けて取り組みます。

教育

学士課程教育の改編【2026年度から実施】

情報技術分野の人材不足や、社会の諸組織におけるDX化の必要性の高まり、初等中等教育における情報教育の普及など、生涯複数のフェーズで新たな学びが求められています。本学は2024年3月「学士課程教育改編の方針」を公表し、2026年度からの学士課程教育の改編によって育成する人材像を本学独自のものとすることをめざします。

2つの新しい教育目標の提示

情報学を基盤とした地域協働型教育

情報学部生だけではなく、文系である地域経営学部の学生にも、情報基礎力を育成すると共に、地域でのフィールドワークや協働事業の推進により情報技術を有効に活用する取り組みを進めます。

汎用的学修能力育成

豊かで質の高い教養教育を提供し、どんな環境でも生涯を通じて学び続ける力を身につけた学生の育成に取り組みます。

改編の内容

- 大学全体・両学部の3ポリシー※を策定
 - 新カリキュラムの実施
 - 基盤教育院(仮称)の設置
 - 情報学部定員増(入学定員120人)
 - 地域経営学部改編(地域経営学科に統合)
- ※3ポリシー ……
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
アドミッション・ポリシー(入学受け入れの方針)

大学院開設

————→ p.5

大学院地域情報学研究科を2024年4月に開設し、情報学と社会科学の知見を融合させたさまざまな研究プロジェクトの実践を通じて地域課題への取り組みと地域の価値の向上に貢献します。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル・応用基礎レベル)の提供

————→ p.12

文部科学省認定の数理・データサイエンス・AI教育プログラムを展開しています。地域課題の解決を目的としたデータ分析やAI技術を学んだ人材の育成を行います。

教職課程(情報・数学)設置【2026年度の設置に向けて申請予定】

地域の教育を担う人材の育成をめざした「情報科」(高校一種)および「数学科」(中学校一種・高校一種)の教員免許の取得が可能な教職課程を設置する準備を進めています。

研究

企業との共同研究

————→ p.8

本学附属機関・北近畿地域連携機構を通じて、企業や自治体の課題解決に取り組みます。

学校組織レジリエンスユニット

————→ p.6

北近畿地域連携機構の「学校組織レジリエンスユニット」を主要な研究開発拠点とし、「バーチャル空間を活用した特別支援教育に特化した教員職能開発※」に取り組みます。

※研究開発責任者：東京大学大学院教育学研究科能智正博教授

地域防災研究センター/国際センター/数理・データサイエンスセンター → p.12

大学が持つ専門的な知見を地域課題の解決に活かすため、各分野の専門機関を併設しています。

福知山 モデル とは

大学の教育研究が地域 貢献のために取り組まれ、
地域と大学が共に 発展するモデルです。

地域連携

北近畿地域連携機構

————→ p.11

教育研究活動の拠点として大学と、企業や行政機関、その他の団体をつなぐ役割を担い、2022年には産学公プラットフォーム「北近畿コラボスペース」を設置し、北近畿地域の発展に向けて取り組みます。

地域の人材育成プログラム

————→ p.11

小・中学生からシニアまで、起業や学び直し、情報人材育成など、さまざまな目的と幅広い世代を対象に、各種講座の提供を通じて地域に貢献します。

STL助成金

————→ p.8

学生が主体的に地域で活動し、成果を見込んだプロジェクトを大学が全面的に支援を行います。

2023年度・2024年4月のトピック

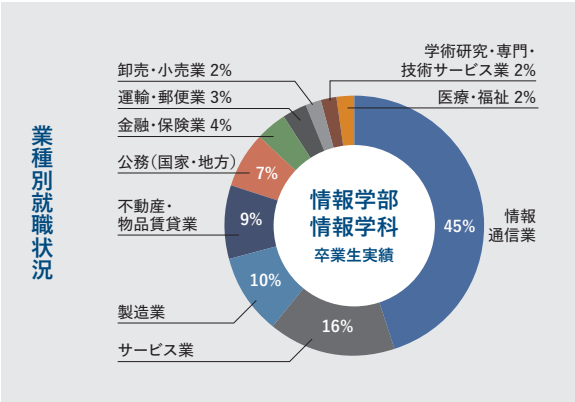


情報学部1期生が卒業

2020年4月に情報学部が開設されてから初めての卒業生となった88人は、就職や大学院などそれぞれの夢に向かって本学を巣立っていきました。

また、就職希望者69人のうち68人が就職し、就職率は98.6%を達成しました。就職先は情報通信業が最も多く、次いでサービス業、製造業の順となりました。本学大学院へは14人が進学しました。

- 地域経営学部の就職率は、100%
本学の規模に応じたキャリア支援を行っており、ガイダンスやセミナーを実施するほか、職員による手厚いサポートにより高い就職率を実現しています。



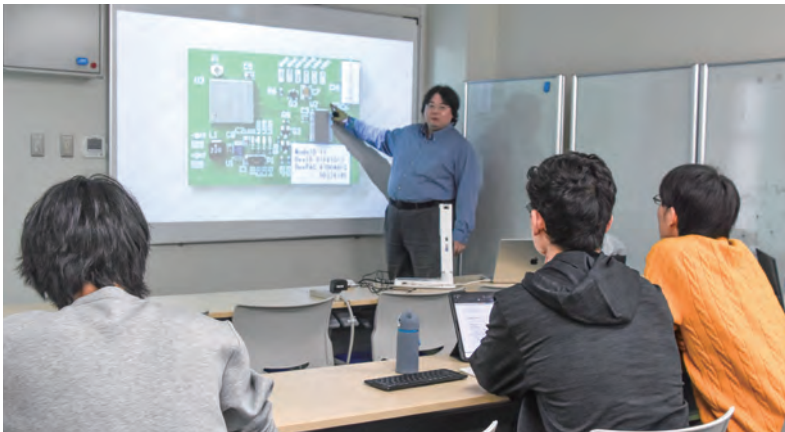
大学院地域情報学研究科を開設

2024年4月に開設した大学院地域情報学研究科には本学からの進学者15人(情報学部卒業14人・地域経営学部卒業1人)を第1期生に迎えスタートしました。

情報学の深い知識と確かな技術に加えて、地域での実践プロジェクト経験を通じて養われた広い視野と高いプロジェクト遂行力・課題解決力を備えた「地域に根ざし世界を視野に活躍できるグローバル情報人材」を育成します。卒業後には、北近畿地域はもちろん国内外での活躍が期待されます。



大学院HP



情報学科目:IoTシステムハードウェア(衣川昌宏准教授)

「学校組織レジリエンス・ユニット」が発足

本学地域経営学部の福島真治准教授が、内閣府戦略的イノベーション創造プログラムの採択研究である「バーチャル空間を活用した特別支援教育に特化した教員職能開発」(研究開発責任者:東京大学大学院教育学研究科能智正博教授)の副研究開発責任者に就任しました。本研究プロジェクトにおける主要研究開発拠点として本学が指定され、これを受けて本学附属機関である北近畿地域連携機構に「学校組織レジリエンス・ユニット」が発足しました。

研究を進めるため、教育現場と研究機関とのより緊密で包括的な関係が必要と判断され、2024年4月10日に福知山市・伊根町・東京大学大学院教育学研究科(附属心理教育相談室)との間で、教員のメンタルヘルス維持と特別支援教育スキル向上に関する連携協力協定が締結されました。北近畿地域の自治体(教育委員会)と提携し、時間や住む場所にとらわれず、オンライン会議システム等のバーチャル空間で交流し、カウンセリングベースに基づく教員職能開発を行う中心組織を福島准教授率いる学校組織レジリエンス・ユニットが担います。



本プロジェクトの詳細



生成AIの活用に関心集まる

人工知能や会話情報学を専門分野とする西田豊明副学長に、生成AIをテーマとした講演や講座の依頼が、全国から23件寄せられ、生成AIの可能性について講演が行われました。

また、学生が立ち上げた本学AI研究サークル「FGR」への講演依頼も相次ぎ、福知山市長とのまちづくりミーティングや京丹後市職員政策提言プロジェクトなど5件の講演を行い、生成AIの急激な普及をうけ、対話型人工知能「ChatGPT」の基本情報や活用事例などを紹介しました。



進路指導研究協議会での講演(西田豊明副学長)



第4回自治体ワークカレッジ(AI研究サークル「FGR」)

ご寄附の活用

本学では福知山市のふるさと納税、企業版ふるさと納税、古本募金などのさまざまな寄附金制度により、個人や企業・団体の皆様からのご寄附を広く受け入れ、教育研究活動や学生支援の充実に活用しています。

福知山市に拠点を置く日本ビラー工業株式会社から企業版ふるさと納税を通じて頂いたご寄附は、学生の海外留学や地域活動に活用しております。地元企業の大福機工商会様からのご寄附をうけ、地元の受験生に大学進学への支度金を給付する本学独自の入学支度金給付制度を創設しました。(大福機工商会奨学金制度)福知山ロータリークラブ様からは学習環境の充実のために4号館ロビーの什器一式を寄贈いただきました。



什器一式の贈呈式(福知山ロータリークラブ様)



ご寄附を検討される方はこちら

地域で学び、次の時代に貢献する 地域協働型教育研究

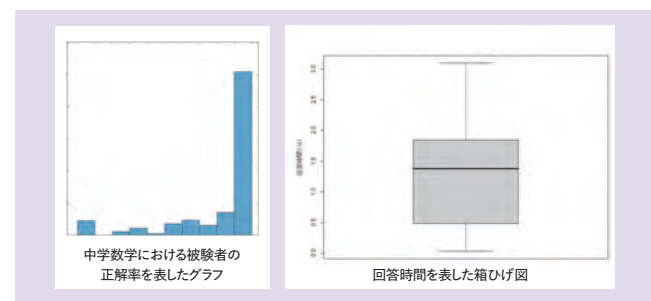
本学には、地域貢献を志す意欲溢れる学生が全国から集まっています。「地域協働型教育研究」は、そんな学生たちの熱い想いを実現するため、住民や企業・団体など地域の方との協働を通じて、地域社会が抱えるリアルな課題と向き合う教育活動です。実際の地域課題を題材に、教員が持つ地域経営学や情報学といった専門分野の理論・手法を活かした演習・実習を展開しています。地域資源を活用した学習で、持続可能な地域社会の実現に貢献できる実践的能力が養われると同時に、地域課題解決にも寄与します。

地域協働型教育研究の事例



日本酒開発プロジェクト

若者の日本酒離れが進む中、地元の若宮酒造×京都府立綾部高校×京都工芸繊維大学と本学が連携し、若者をターゲットにした日本酒開発プロジェクトが開始しました。若者世代への日本酒普及をめざします。



ICT活用教育

福知山市の小・中学校では一人1台のタブレット端末を使った授業が導入され、ICT活用教育の推進のため福知山市教育委員会と連携。学習状況を可視化し、教育改善を図ると同時に教員の業務負担軽減を目的としています。



まちあるきイベント“こまねこワーク”

京丹後市峰山町は地元住民でも地域の歴史や文化を知らない人も多く、まちの活性化のためにも魅力を再発見してもらいたいとまち歩きイベントを継続しています。地域への愛着が生まれ、コミュニティ活動が生きがいにもつながります。



ICT技術“縁プロジェクト”

豊かな自然環境が魅力の福知山市毛原地区は、過疎化と超高齢化が大きな課題で、近年は移住や村外住民が増加。ICT技術等を活用して、新たな住民と地域との「縁」をつなぎ、さらなる活性化をめざしています。

共同開発・共同研究

本学附属機関・北近畿地域連携機構を通じて企業や自治体の課題解決に向けて教員と学生が取り組みました。

共同開発・共同研究の事例



万願成就あめ —規格外野菜の活用—

地域の人材育成を図る「NEXT産業創造プログラム」の一環で、学生と株式会社Seasonが「万願成就あめ」を共同開発しました。食品ロスの課題解消につなげたいと、規格外の万願寺とうがらしや、ジュース作りの際に残る三和ぶどうの種や皮を使ってあめを作成。「SHIBUYA QWS」(東京都)での企業交流イベントに参加したり、近隣郵便局で試験販売を行い、商品のアンケート調査に取り組みました。



若者向けウェブサイトの構築

若者の着物離れが進む現状を受け、崔童殷准教授と山本吉伸教授のゼミ生たちが約半年に渡る研究の末、若者の和装文化の機会創出と浸透を目的にウェブサイトを開発しました。谷義産業株式会社が保有する着物関連の史料を活用し、学生の感性を活かして若者向けの情報発信のあり方を研究しました。



福知山市歴史公文書の調査整理

福知山市所蔵の公文書の整理作業を研究担当者・小山元孝教授と小山ゼミを中心とした学生8人が、公文書へのラベル貼付や、記録写真の撮影などを行いました。公文書の中には災害復旧など福知山市の歴史を考えるうえで重要なものも含まれており、今後詳細な調査を行う予定です。

STL助成金

学生が主体的に実施し、地域を活性化する取り組みに対して活動費を支援しています。
※2023年度までは学生プロジェクトという名称でしたが、2024年からSTL(Students Launch)助成金へと改められました。



STL助成金の事例



福知山プロジェクションマッピング2023

「福知山イル未来と2023」などさまざまなイベントへの参加を通じて、地域コミュニティの活性化や、福知山市の知名度上昇を目的に活動しています。和紙灯籠・手持ち行灯は昨年からの改良を重ねて好評でした。



KyotoストリートミュージックProject

多様な音楽イベントを主催し、地域コミュニティの活性化を促すことを目的に活動しています。さらなる音楽需要の底上げを図り、最終的には「音楽のまち」をめざしていきます。



ぎっずすとぅにーる

子どもたちの第3の居場所として「ふくちやま子ども食堂」を開催。安価で栄養のある食事提供や、学生との勉強や遊びなど、親子で安らげる時間や空間を提供しています。

学部・学科

地域経営学部

「地域経営学」を用いて、公共経営や企業経営、交流観光、医療・福祉などの観点から持続可能な社会の構築をめざします。

HPはこちら



地域経営学科(入学定員75名)

公共経営系
企業経営系
交流観光系

医療福祉経営学科(入学定員25名)

学びの
特色

地域で学び、地域に還元する
「地域協働型教育研究」

大学の学びと社会での経験をつなぐ
「地域キャリア実習」

「初級地域公共政策士」「診療情報管理士」
など充実した資格取得支援体制



公共経営系

官民による公共経営の諸活動を知り、地域の共有資源を活用して人々に質の高いサービスを供給する手法を学ぶ。



企業経営系

社会の変化に対応する企業の組織管理、経営戦略、新製品の開発等に関わる知識や手法を学ぶ。



交流観光系

地域固有の資源を活用した人々の交流や観光を構築・発信し、地域を活性化する知識とノウハウを身につける。



医療福祉経営学科

地域社会の存続に必要な不可欠な医療・福祉の経営に参画できる知識と技術を得る。

HPはこちら



情報学部

高度な知識習得のための3つの専門領域から、情報技術の地域社会への応用を学びます。



情報学科(入学定員100名)

人間・社会情報学トラック
データサイエンストラック
ICTトラック

学びの
特色

事例から原理に近づき
専門性を高める「帰納的学習」

実践を通じて
情報学を習得する「IT実習」

情報学の知見と技術を用いた
「PBL(課題解決型学習)」



人間・社会情報学
トラック

AI(人工知能)やエンタテインメントなどで注目されている情報技術を身につける。



データサイエンス
トラック

ビッグデータを収集・分析し、価値を付加することで、地域社会が抱える諸課題の解決をめざす。



ICTトラック

情報の解析やアプリケーションの開発を通じて、地域社会が抱える諸課題の解決法を学ぶ。

大学院

HPはこちら



地域情報学研究科 地域情報学専攻(修士課程)

学位 修士(情報学)/修士(学術) 【入学定員】20名

Feature 1 地域とともに成長する大学院

福知山公立大学大学院地域情報学研究科は、その名の示す通り、情報学の深化をめざす研究開発に加え、その成果を地域に根ざした実践活動に適用することをめざします。そこで、当研究科では、社会科学をはじめ幅広い領域の知見を含む「2本の柱」とも呼べる教育研究のアプローチを実現します。

地域に根ざした教育・研究の「2本の柱」

地域社会に貢献する
情報学の深化と研究開発

先端的な情報技術や理論をさらに深化させ、
情報学の新しい知を創造する
研究活動に取り組みます。

情報学による地域に根ざした
実践的プロジェクトの遂行

地域社会の課題解決に向けたプロジェクトを展開し、
情報学を中心とした技術体系を社会に実装
するための実践活動に取り組みます。

Feature 2 実践的プロジェクトの成果による学位認定

大学院では、学術研究による学位[修士(情報学)]だけでなく、地域での起業・共同開発事業等により、研究科での活動の成果を地域社会に実際に還元するための活動を通じて学位[修士(学術)]を認定するプログラムを有しています。地域とともに歩む大学院として、地域の諸課題を高度な技術・知識をもって解決することは大学院の目的のひとつです。情報学領域に関するより高度な専門知識を修得するとともに、情報学の各分野の研究成果を通じて、持続可能な地域社会の発展に寄与することができる課題探求と問題解決能力を身につけた者に対し、学位を認定します。

文理融合の
学びを提供

1年次

情報学系科目	情報学の先端技術および知見を学ぶ
社会科学系科目	実践のために地域社会を理解する
文理融合科目	地域と情報の実践的な接続を学ぶ
演習:実践の足掛かり (フィールド調査)	プロジェクト/研究のための基礎調査

2年次

情報学研究コース 情報学研究の深化 学術研究成果を形成	修士(情報学)
地域情報プロジェクトコース 実践的プロジェクト 地域社会に貢献する	修士(学術)

研究テーマ例

修士課程で実際に取り組むテーマは、地域課題を扱う実践的なプロジェクトから情報学研究までさまざまなものが想定されます。



福祉とロボット

地域福祉活動にAI・ロボットを実践的に導入することに関する研究、中山間地域における遠隔ロボットによる福祉活動の実現、遠隔ロボット・AIによる福祉活動/プランニングに関する相談・支援などを実現



学びの場のDX

教育現場における情報化の推進、タブレット学習のログ分析などデータ活用、さらにこれらの導入プロセスの検討と支援など、北近畿地域の小中学校と協働する実践的な研究活動を実施



公共・観光のスマート化

観光や防災、あるいはMaaSなどの分野における人流計測および人流データの解析を通じて、地域特性に応じたサービスの設計、実装に通じる基礎データ解析などを実現



地域防災×ICT

地域コミュニティの自然災害に対する防災・減災行動とICTを活用した地域の特性を踏まえた観測網の構築や被害予測さらに、避難スイッチとしての情報提供の融合をはかる実践的地域防災研究



AI・データサイエンス

科学的機序やデータサイエンスに基づくシステムの研究開発、数値的手法を現代社会における諸問題の解決に適用するための基礎研究および応用研究などを実施



附属機関



北近畿地域連携機構

北近畿地域における教育研究活動の連携拠点として、福知山公立大学と北近畿地域の企業、行政機関その他各種団体をつなぎ、北近畿地域の発展に向けて取り組む組織です。企業や地域住民から課題の相談を受け、教員につなぐほか、各種公開講座の提供などを通じて、地域社会への貢献を推進します。



北近畿地域
連携機構のHP

地域の人材育成プログラム

NEXT産業創造プログラム

起業をめざす方が必要な知識やスキルを短期間で修得するための「NEXT産業創造プログラム」を実施しています。本学教員をはじめ各界で活躍する起業家を講師に招聘し、新たな価値創造に挑戦する人材育成をめざします。



シニアワークカレッジ ～福知山市リスクリングプログラム～

シニアを中心とする幅広い世代を対象に、ビジネスで役立つ最新の情報技術が学べる「シニアワークカレッジ」(主催：福知山市)を開講しています。

コース名(2024年度)

- データサイエンスと数理コース
- AI人材育成コース
- 広報用動画制作コース
- Pythonプログラミング入門とドローンの自動操縦コース



市民講座

大学の持つ「知」を広く市民に提供し、持続可能な地域社会形成の一助となることを目的として、講演およびパネルディスカッションを実施しています。

講座タイトル(2023年度実績)

- データから見る福知山のまちづくりー1市3町合併の検証を踏まえてー
- 防災の木になる話



小中学生向けプログラミング教室

福知山市・丹波市・朝来市の小・中学生を対象に、情報技術の楽しさや面白さを優しく丁寧に教えるプログラミング教室を開催しています。

コース名(2023年度実績)

- ゲームでプログラミング
- プログラミング入門



まちかどキャンパス「吹風舎」

まちかどキャンパス「吹風舎(ふくちしゃ)」は、かつて福知山の商業の中心地だった新町商店街の空き店舗をリノベーションし、本学のサテライトキャンパスとして2018年5月に開設しました。おすすめの本を持ち寄る「ライブラリー」、アートや活動紹介を展示する「ギャラリー」、プロジェクトのミーティングスペースとして活用する「ベース」などさまざまな企画を実施し、学生・教職員や地域の人々が集い、学び合いや共同作業を通じて交流を深めています。



地域防災研究センター



学生2名と能登半島地震の被災地支援(2024年2月10日)

地域経営学、情報学の専門的知見を活かし、福知山周辺地域で蓄積されてきたデータの収集・分析を基に、地域防災に関する現状把握・課題・対応策などの研究を行います。その内容や成果を社会実装につなげるとともに、より包括的な地域防災のあり方への提言を行うなど、自治体の防災・危機管理に寄与することをめざしています。

- 2023年度は公開講座として、防災活動・災害ボランティア・市民組織のあり方などをテーマに地域防災連続セミナーを計12回実施し、緊急回では令和6年度能登半島地震の被害状況報告や学びと課題をテーマに実施しました。



地域防災研究
センターHP

メディアセンター



メディアセンターでは本学の研究・教育・学修のために不可欠な資料を収集、組織、保管して、学生や教職員に提供しています。現在、北近畿地域資料を含む約9万5千冊の図書や60種の雑誌を所蔵しており、生涯を通した「学び場」の提供として市民の方にも広く開放しています。



メディア
センターHP

国際センター



国際的な視野に立った研究・教育活動および国際交流事業を展開し、地域の国際化に貢献するとともに、福知山ならではの独自の視点を世界に向けて発信することをめざしています。

- 本学学生の海外留学プログラムの企画や海外の大学から短期交換留学生の受け入れを行うほか、地域の国際交流活動に協力します。



国際センターHP

数理・データサイエンスセンター



現代社会で必須とされる数理科学やデータサイエンス。その北近畿地域における拠点として、数理・データサイエンスの教育・研究を推進することや、諸機関との共同研究を通じて、地域の発展に寄与することをめざしています。

- 文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、情報学部のカリキュラムを用いたプログラムが「応用基礎レベル」に認定されました。



数理・データ
サイエンスセンターHP

教員一覧

各分野のスペシャリストが専門的な学びを提供

■ 地域経営学部

■ 情報学部

■ 大学院

 井上 直樹 学部長 / 教授 INOUE, Naoki — 専門分野 — 会計学、監査論、公会計、公監査、公共経営	 WALSH Anthony 准教授 — 専門分野 — Applied Linguistics	 大谷 杏 准教授 OTANI, Kyo — 専門分野 — 生涯学習、社会教育、多文化共生	 岡本 悦司 教授 OKAMOTO, Etsuji — 専門分野 — 医学、公衆衛生学、医療情報
 加藤 好雄 准教授 KATO, Koyu — 専門分野 — マーケティング	 神谷 達夫 学科長 / 教授 KAMITANI, Tatsuo — 専門分野 — 音響工学、信号処理、コンピュータハードウェア・ソフトウェアの設計	 亀井 省吾 教授 KAMEI, Shogo — 専門分野 — 経営戦略、イノベーション経営、ベンチャー企業論	 川島 典子 教授 KAWASHIMA, Noriko — 専門分野 — 社会福祉、地域福祉、ジェンダー
 木村 昭興 教授 KIMURA, Akinori — 専門分野 — 行政学、公共経営、会計学、管理会計	 倉田 良樹 副学長 / 教授 KURATA, Yoshiaki — 専門分野 — 労働社会学、産業社会学、社会学理論	 小山 元孝 学科長 / 教授 KOYAMA, Mototaka — 専門分野 — 地域史、宗教史、デジタルアーカイブ	 齋藤 達弘 教授 SAITO, Tatsuhiro — 専門分野 — コーポレートファイナンス、銀行論
 佐藤 充 准教授 SATO, Mitsuru — 専門分野 — 地域産業論、観光研究、中小企業論	 佐藤 恵 准教授 SATO, Megumi — 専門分野 — 経営工学(品質管理)、医療情報学	 渋谷 節子 教授 SHIBUYA, Setsuko — 専門分野 — 文化人類学、アジアの社会と文化、異文化理解、多文化社会	 鄭 年皓 教授 JUNG, Nyunho — 専門分野 — 経営科学、経営管理論
 杉岡 秀紀 准教授 SUGIOKA, Hidenori — 専門分野 — 公共政策学(自治体政策学・地域政策)、地方自治論、NPO論	 大門 大朗 准教授 DAIMON, Hiroaki — 専門分野 — 社会心理学、グループ・ダイナミクス	 谷口 知弘 教授 TANIGUCHI, Tomohiro — 専門分野 — 地域政策、コミュニティデザイン、ワークショップ	 張 明軍 准教授 ZHANG, Mingjun — 専門分野 — 農村ツーリズム、農村計画、中国語教育
 中尾 誠二 教授 NAKAO, Seiji — 専門分野 — 社会経済農学(都市農村交流)	 福畠 真治 准教授 FUKUHATA, Shinji — 専門分野 — 学校経営、教育行政	 星 雅丈 准教授 HOSHI, Masatake — 専門分野 — 医療情報学、病院マネジメント、地域医療福祉政策	 三好 ゆう 准教授 MIYOSHI, Yu — 専門分野 — 財政学、地方財政論

 池野 英利 学部長 / 教授 IKENO, Hidetoshi — 専門分野 — ニューロインフォマティクス、生体情報工学、計測工学	 井上 一成 教授 INOUE, Kazunari — 専門分野 — 情報ネットワーク工学、電子デバイス、電子機器、IoT、地域IoT	 河合 宏紀 准教授 KAWAI, Hironori — 専門分野 — 情報工学、知覚情報処理	 衣川 昌宏 准教授 KINUGAWA, Masahiro — 専門分野 — 情報セキュリティ、環境電磁工学、電磁情報セキュリティ、ハードウェアセキュリティ、情報通信ネットワーク、電子工学、計測工学
 倉本 到 研究科長 / 教授 KURAMOTO, Itaru — 専門分野 — エンタテインメントコンピューティング(EC)、ヒューマンエージェント/ロボットインタラクション(HAI/HRI)、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)	 黄 宏軒 教授 KO, Hironoki (HUANG, Hung-Hsuan) — 専門分野 — 人工知能、ヒューマンインタフェース、コミュニケーション科学	 須志田 隆道 准教授 SUSHIDA, Takamichi — 専門分野 — 数理生物学、計算幾何学、数値計算	 田中 彰一郎 助教 TANAKA, Shoichiro — 専門分野 — 組合せ最適化
 崔 童殷 准教授 CHOI, Dongeun — 専門分野 — 情報工学、人間工学、感性情報工学、デザイン工学、生活科学	 野村 修 教授 NOMURA, Osamu — 専門分野 — 人工知能、脳型情報処理、アナログ集積回路、認知科学	 橋田 光代 准教授 HASHIDA, Mitsuyo — 専門分野 — 音楽一般、音楽情報科学	 畠中 利治 教授 HATANAKA, Toshiharu — 専門分野 — 計算知能、データサイエンス、制御工学
 畠中 理英 准教授 HATANAKA, Masahide — 専門分野 — 無線通信、信号処理	 藤井 叙人 講師 FUJII, Nobuto — 専門分野 — ゲーム情報学、エンタテインメント情報学、認知科学	 前田 一貴 講師 MAEDA, Kazuki — 専門分野 — 応用数学、離散可積分系、数値解析	 松山 江里 教授 MATSUYAMA, Eri — 専門分野 — 知覚情報処理、知能情報学、放射線科学
 眞鍋 雄貴 講師 MANABE, Yuki — 専門分野 — ソフトウェア工学	 森 禎弘 教授 MORI, Yoshihiro — 専門分野 — 制御工学、システム工学	 山田 篤 教授 YAMADA, Atsushi — 専門分野 — 自然言語処理、文書処理、音声言語処理、メタデータ管理	 山本 吉伸 教授 YAMAMOTO, Yoshinobu — 専門分野 — 認知科学、サービス工学、計算機科学、ヒューマンインタフェース
 渡邊 扇之介 准教授 WATANABE, Sennosuke — 専門分野 — 離散数学			

各教員の
詳細はこちら

全国から集う学生たち

叶えたい夢や、達成したい目標を抱き、学生が日本全国から集まっています。

2024年4月入学生

入学数
222名
志願者数
729名

※編入学選抜の入学者・志願者は除く。
※その他は、高等学校卒業認定試験
および私費外国人留学生選抜です。

社会課題に
取り組む事業を
立ち上げる



地域経営学科
関谷 鮎菜 さん
北海道
北海道札幌稲雲高等学校出身

観光のノウハウと
デザインの力で
宮城の魅力を発信



地域経営学科
佐藤 寧来 さん
宮城県
宮城県古川高等学校出身

農業に
情報技術を
組み合わせ
改革を起こしたい



情報学科
原田 悦志 さん
福岡県
福岡県立新宮高等学校出身

プログラミング技術で
観光のその先の
コンテンツ創りを



情報学科
仲宗根 佑斗 さん
滋賀県
滋賀県立米原高等学校出身

全国ワースト、
地元愛媛の
心疾患死亡率を
改善する



医療福祉経営学科
越智 清香 さん
愛媛県
愛媛県立今治西高等学校出身

1/6

その他
2/4名

※掲載学生は2023年入学生

データ集

学生数

(単位:人)

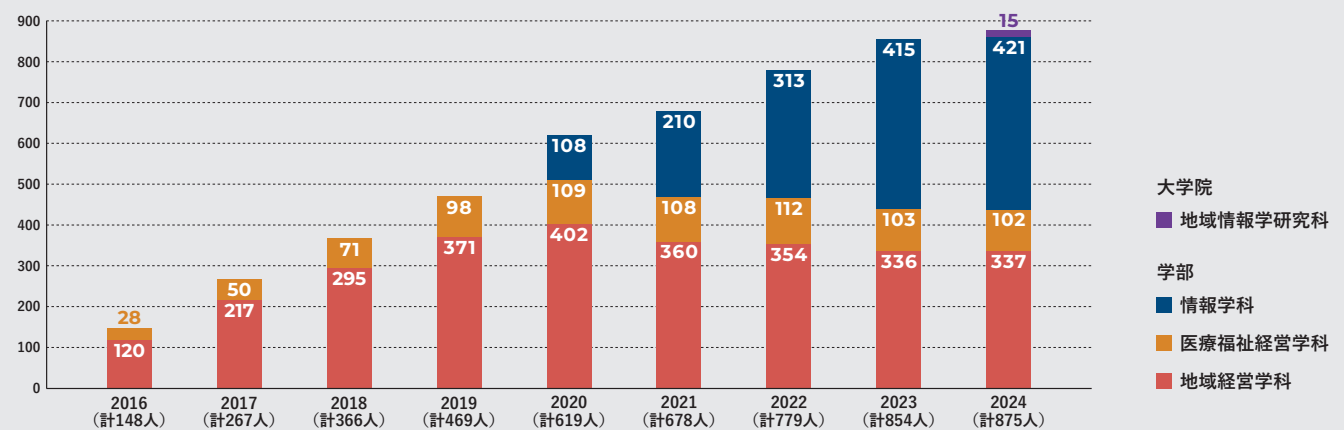
2024年5月1日現在

	収容定員	1年生	2年生	3年生	4年生	合計		
						男性	女性	合計
地域経営学部	414	114	102	107	116	213	226	439
地域経営学科	310	89	79	79	90	177	160	337
医療福祉経営学科	104	25	23	28	26	36	66	102
情報学部 情報学科	404	108	103	100	110	314	107	421
小計	818	222	205	207	226	527	333	860
地域情報学研究科地域情報学専攻	20	15	-	-	-	15	-	15
合計	838	237				542	333	875

学生数推移

(単位:人)

2024年5月1日現在



入試実施状況

志願者・入学者数

(単位:人)

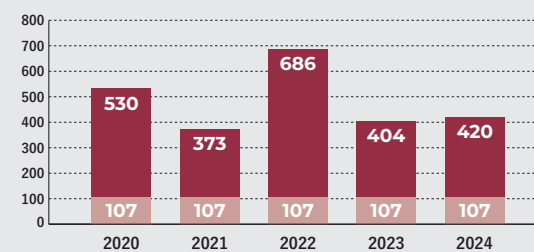
2024年度

	地域経営学部			情報学部				地域情報学研究科		
	募集人員	志願者	入学者	募集人員	志願者	入学者		募集人員	志願者	入学者
推薦(全国枠・地域枠・専門学科枠)	35	81	38	35	53	37	一般	20	14	14
一般(前期(5教科型・3教科型)・後期)	65	334	76	65	261	71	一般(第2次)	若干名	-	-
特別(社会人・私費外国人留学生)	若干名	0	0	-	-	-	一般(第3次)	若干名	1	1
編入学(2・3年次)	7	5	0	2	0	0	計	20	15	15
計	107	420	114	102	314	108				

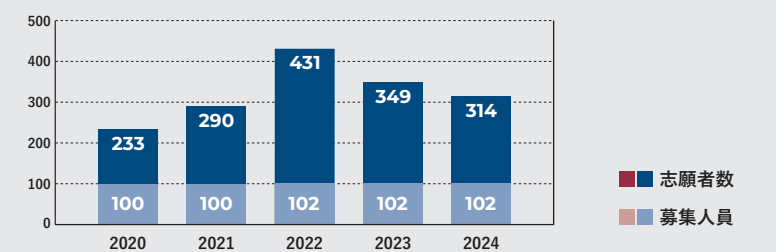
志願状況の推移

(単位:人)

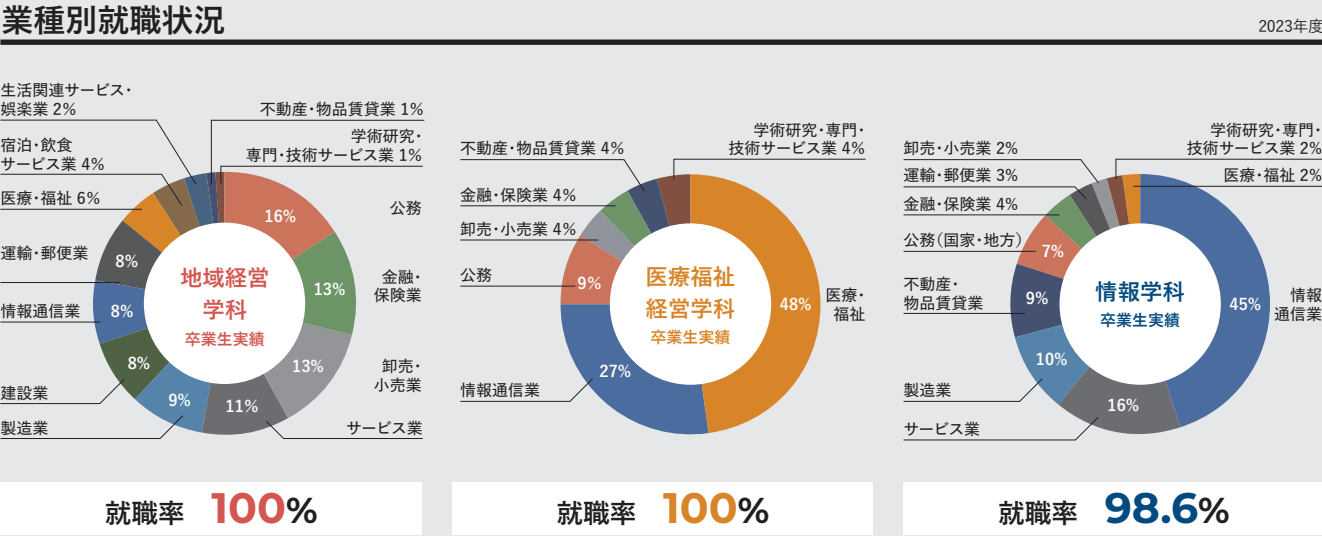
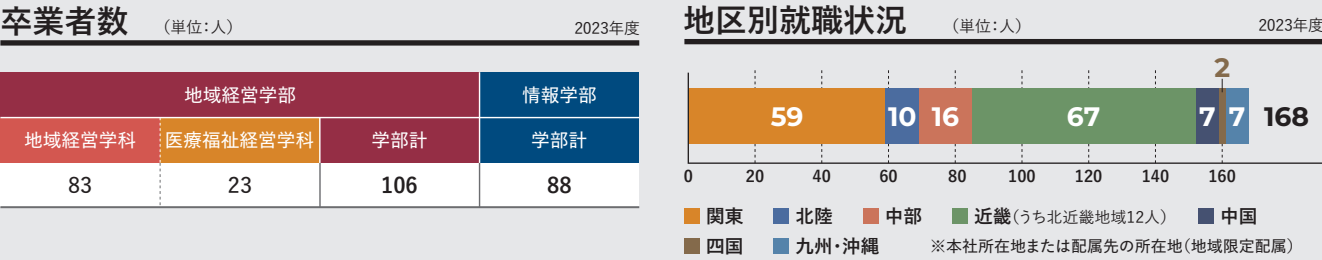
地域経営学部(推薦・一般・特別・編入学)



情報学部(推薦・一般・編入学)



進路状況



共同研究

2023年度

共同研究機関	契約内容	担当者
株式会社サイバーエージェント 国立大学法人大阪大学 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部京滋支社福知山支店	ロボットとICT技術による福知山駅活性化の検討	倉本到教授
毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト	ハイブリッド型電子地域通貨システム運用実証実験	山本吉伸教授
前橋工業株式会社	解砕ホッパーキ量検出の研究	神谷達夫教授
伊根町	持続可能なまちづくり調査研究事業	佐藤充准教授 谷口知弘教授
夕日ヶ浦観光協会	マーケティング・リサーチに基づく地域ブランディングの構築手法に関する研究	佐藤充准教授
福知山市	福知山市歴史公文書等調査整理研究	小山元孝教授
大身自治会	三和町大身地区における地域づくりに関する研究	張明軍准教授
谷義産業株式会社	地域の着物産業活性化を目指す若者の感性を活かしたデザインによる効果的なウェブサイトの研究	崔童殷准教授
雲原砂防イベント実行委員会	情報技術を活用した地域課題解決方策の検討と実践	山本吉伸教授
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社	CRMの高度化に向けた顧客セグメンテーションに関する研究	佐藤充准教授
福知山市消防本部	消防活動におけるAI支援	水口学特任教授

受託研究

2023年度

委託者	契約内容	担当者
福知山市	ラーニングイノベーション・プロジェクト監修業務	畠中利治教授
兵庫県公立大学法人	画像を用いた森林の生物データの取得及び管理システムに対する情報技術の開発と運用	池野英利教授
一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク	原子力発電所立地自治体の産業構造は、どうなっているのか？	三好ゆう准教授
京都府中丹広域振興局	京都中丹いちおし商品の市場拡大戦略に関する研究	張明軍准教授
京都府中丹広域振興局	縁(えん)プロジェクト	山本吉伸教授
福知山市	障害のある人の個性を生かしたデザイン要素の抽出と商品への応用	崔童殷准教授
福知山市	僻地にあるセレクトショップ「鬼の巣」の集客力向上支援	山本吉伸教授
国立研究開発法人科学技術振興機構	バーチャル空間を活用した特別支援教育に特化した教員職能開発	福畠真治准教授

受託事業

2023年度

委託者	契約内容	代表者
福知山市	福知山市シニアワークカレッジ運営事業支援業務	池野英利教授
福知山市	NEXT産業創造プログラム運営業務	亀井省吾教授
福知山市	スマートシティふくちやま生涯学習市民講座 「スマホ・タブレット活用初心者講座」実施業務	山本吉伸教授
公益財団法人福知山市都市緑化協会	学生記者運用及びホームページ保守管理業務	山本吉伸教授
福知山市外企業	AIを用いた測定機異常検知の研究	畠中利治教授
中六人部地区農村RMO事業推進連絡会議	「スマホ活用初心者講座」実施業務	山本吉伸教授
京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会	高等教育機関との連携による人材育成事業実施業務	畠中利治教授
福知山市	市民アンケート作成・集計・分析業務	大門大朗准教授
京都府総合教育センター	小学校プログラミング教室運営支援業務	池野英利教授
環境計測株式会社	福知山鉱山坑排水処理場における水質管理アプリケーションの作成・検証	畠中利治教授

メディア掲載

※本学調べ

2023年度

媒体	件数
新聞	411
その他	40

共同研究や受託研究に関するご相談は
北近畿地域連携機構までお問い合わせください。

所在地 京都府福知山市字堀3370 福知山公立大学 2号館1階「Kita-re」
TEL 0773-24-7151 Email kita-re@fukuchiyama.ac.jp
https://www.fukuchiyama.ac.jp/kitare/

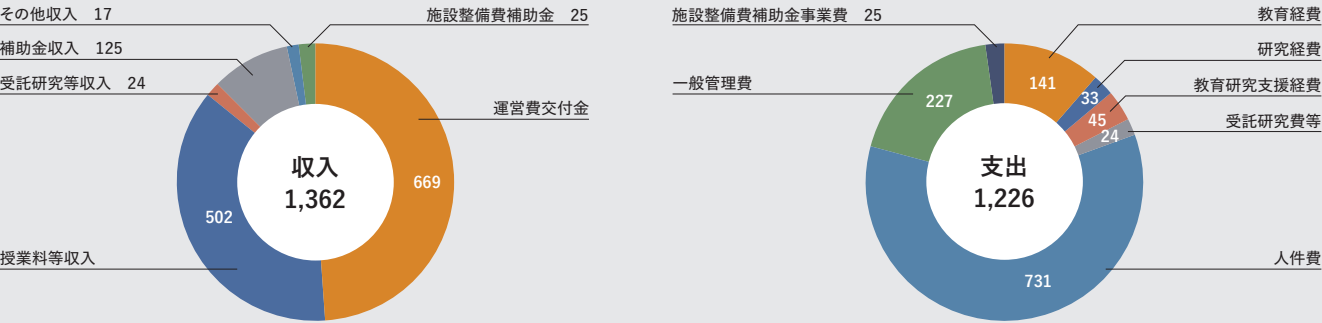


北近畿地域
連携機構のHP

財務状況

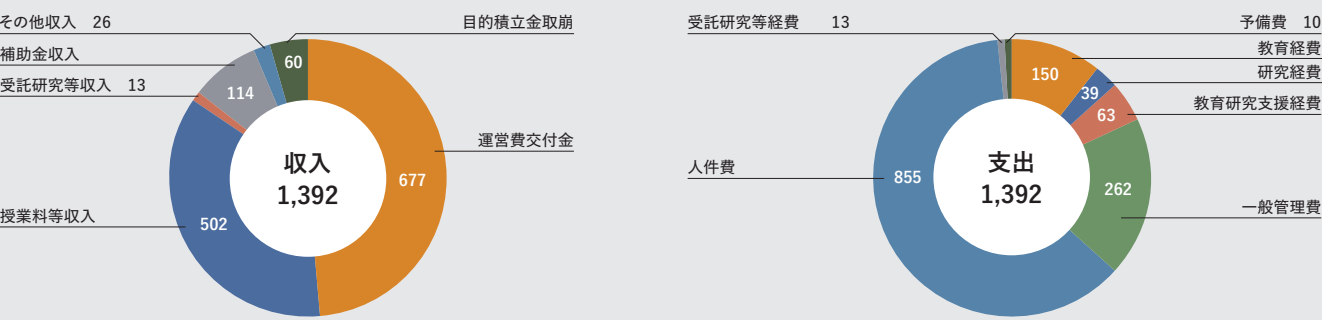
令和5年度決算

(単位:百万円)



令和6年度予算

(単位:百万円)



外部資金獲得

(単位:千円) ※科学研究費助成事業の件数は、当該年度に研究期間が含まれるものの件数



寄附金受入

(単位:円)

年度／受領先	法人		個人		計
	件数	金額	件数	金額	
2020	2	651,433	15	2,456,176	3,107,609
2021	3	1,028,257	11	5,053,155	6,081,412
2022	2	1,016,372	22	1,796,397	2,812,769
2023	4	1,502,829	21	1,282,673	2,785,502

組織

役員

2024年4月1日現在

職名	氏名	所属等
理事長	川添信介	本学学長
理事(地域貢献・評価担当)	西田豊明	本学副学長
理事(学務・総務担当)	倉田良樹	本学副学長・教授
理事(大学運営担当)	柴田洋三郎	公立大学法人福岡県立大学理事長・学長
理事(地域連携担当)	仁張直敏	ニンバリ株式会社名誉顧問
理事(大学戦略担当)	三浦和幸	京都橋大学学生事務部長
監事	小嶋勝	公認会計士・税理士
監事	西垣秀照	元但馬信用金庫監事

経営審議会委員

2024年4月1日現在

氏名	所属等
川添信介	本学学長
西田豊明	本学副学長
倉田良樹	本学副学長・教授
足立正	福知山商工会議所 産学連携特別委員会委員長
寒竹聖一	Zip Infrastructure株式会社シニアアドバイザー
小林加奈子	株式会社小林ふぁーむ代表取締役
嵯峨根正和	一般社団法人長田野工業センター専務理事
田村雅之	福知山市市長公室長

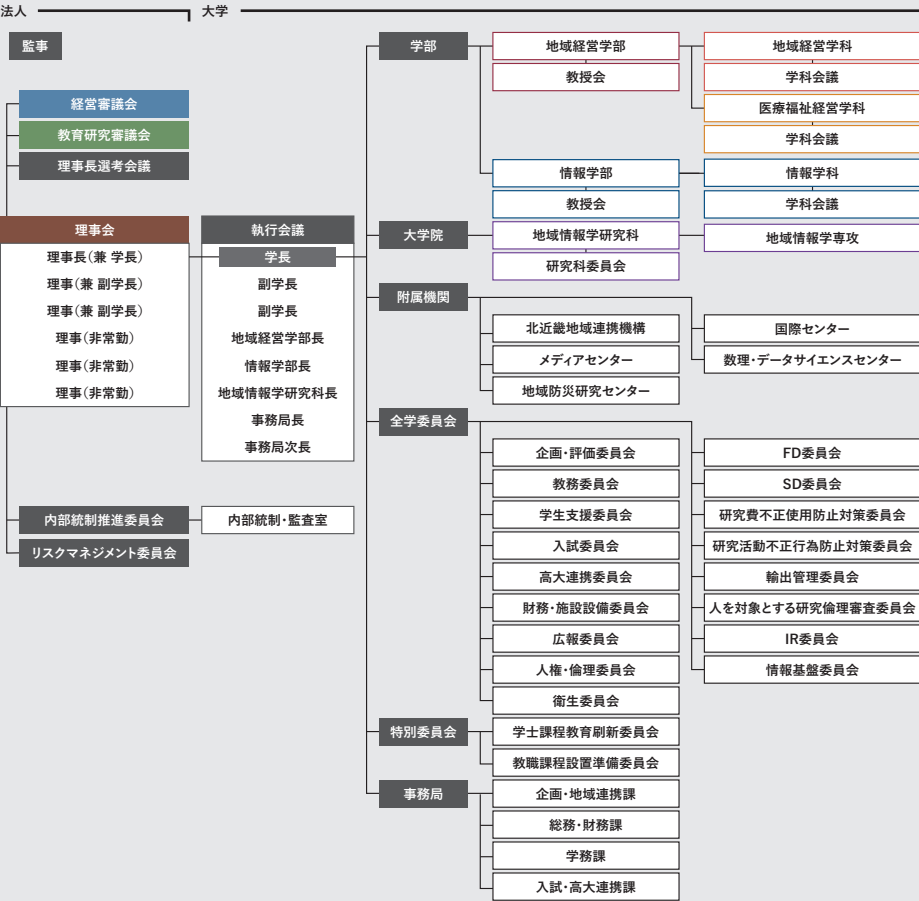
教育研究審議会委員

2024年4月1日現在

氏名	所属等
川添信介	本学学長
西田豊明	本学副学長
倉田良樹	本学副学長・教授
井上直樹	本学地域経営学部長・教授
池野英利	本学情報学部長・教授
倉本到	本学大学院地域情報学研究科長・教授
坂根文伸	本学特命教授
今井一之	兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学入試広報コーディネーター
岡田知弘	京都橋大学経済学部教授
落合登志哉	京都府立医科大学附属北部医療センター病院長
中村佳正	大阪成蹊大学学長・教授
三田真史	京都新聞社北部総局長

組織図

2024年4月1日現在



教職員数

教員

2024年5月1日現在

職名	人数		
	地域経営学部	情報学部	地域情報学研究科
教授	13	10	12
准教授	11	7	5
講師	0	3	2
助教	0	1	0
非常勤講師	9	9	0
計	33	30	19

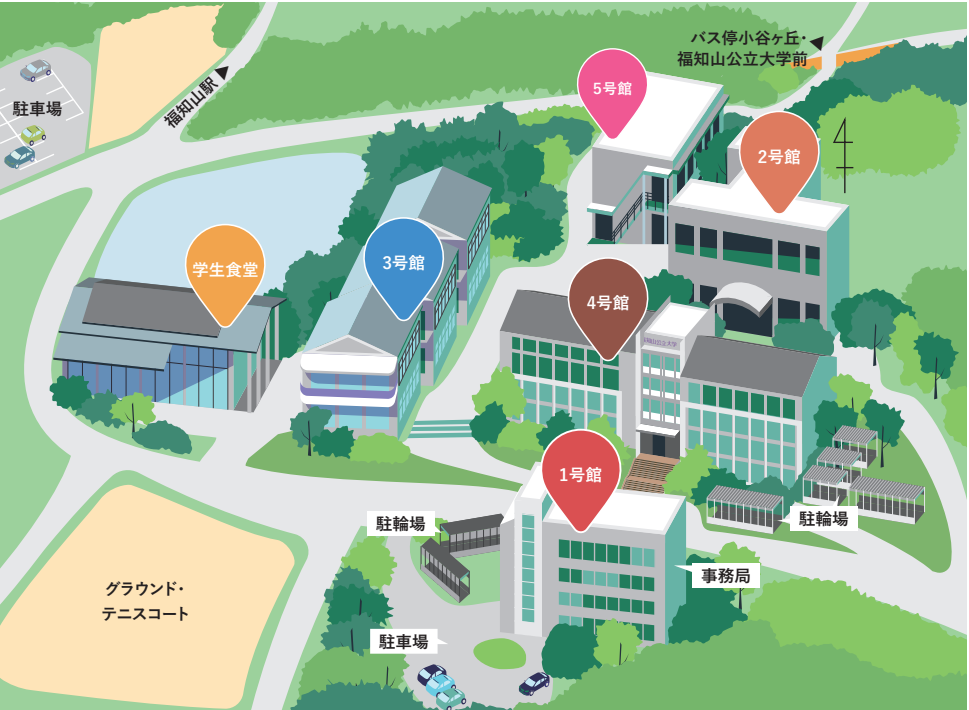
(※) 地域情報学研究科の教員は、学部と兼任

事務職員

2024年5月1日現在

職名	人数
専任職員	32
嘱託職員	8
非常勤職員	12
計	52

キャンパスマップ



■ 1号館 2,362.65㎡

- 学長室
- 研究室(情報学部)
- 副学長室
- 演習室
- 事務局



■ 2号館 1,869.33㎡

- 北近畿地域連携機構
- センター共同事務室(地域防災研究センター・国際センター/数理・データサイエンスセンター)
- 研究室(地域情報学研究科・情報学部)
- 演習室
- 保健室
- アクト教室(課外活動室)



■ 3号館 1,756.08㎡

- 講義室
- 実驗室
- セミナー室
- 大学・地域連携室



■ 4号館 6,471.7㎡

- 講義室
- PC演習室
- セミナー室
- 研究室(地域経営学部)
- メディアセンター
- カウンセリングルーム



■ 5号館 282.08㎡

- 研究室(地域情報学研究科・情報学部)
- 演習室



■ 学生食堂 634.99㎡

- 座席数:238席

アクセス



- JR京都駅→福知山駅 最短75分
- 大阪なんば→福知山駅 107分(高速バス)
- JR大阪駅→福知山駅 最短91分
- 神戸三宮→福知山駅 90分(高速バス)



- 福知山駅北口より京都交通バス掘循環線にて「平和公園下」または「小谷ヶ丘・福知山公立大学前」下車、徒歩6分
- 福知山駅南口よりタクシーにて5分
- 徒歩にて30分